

仲間とめぐる都内の戦争遺跡

戦後76年が過ぎましたが、都内には数々の戦争遺跡が残されています。その多くが自治体や地元の人々の手によって保存されてきたものです。そうした戦争遺跡を支部の仲間とともにめぐって見ました。

大空襲で焼け残った文書庫 熱であぶられた壁

江戸川区の西側に位置し、当時の南葛飾郡役所の倉庫と荒川と旧中川に挟まれた中洲として建てられ、1932年昭和7年に東京35区の誕生で江戸川区となると、行政文書を収める文書庫として使われていました。1945年昭和20年3月10日、小松川地区は空襲を受け、この一角に土蔵のように窓が極めて少ない2階建てのコンクリート造の建物があります。江戸川区役所旧文書庫です。1924年(大正13年)、



旧文書庫内に立つ田嶋部長

後、跡地を購入し文書庫は残りますが、1978年(昭和53年)に東京大空襲で焼け残った建物であることが判明するまで忘れられていました。1988年(昭和63年)に江戸川区が保存補修するとし、翌年に工事が完了しました。

江戸川区

7月6日、地元江戸川支部の田嶋隆人教宣部長、中村安



小松川さくら公園の一角にある旧文書庫

彦書記次長と旧文書庫を訪れました。旧文書庫の外観はいつでも見ることができずが、この日は、江戸川区総務課人権啓発係の太田美帆主査の案内で建物の中に入り、見学することができました。中には書棚はありませんが、焼け焦げた壁は強い熱であぶられたことを想像させます。剥落(はら)く防止のためか、壁面にはメッシュネットが張

大戦を伝えるB29のタイヤ 人々が逃れた防空壕

1945年(昭和20年)の5月25、26日、入谷町(現在の足立区入谷)に、太平洋戦争中のアメリカ軍の爆撃機、B29が墜落しました。そのタイヤが入谷5丁目の民有地に残されています。



B29のタイヤを見つめる森部長

足立支部の憲法平和対策部長の森和夫さんと共に7月21日にその場所を訪れました。タイヤは何の説明もなく、ただそのまま、半分埋まった状態でありました。長年、屋外

足立区

その後、足立区郷土博物館を訪れ、墜落したB29の搭乗員を慰霊した「無名戦士ノ墓(碑)」や、そのプロペラの一部を見学しました。森さんは「敗戦の中で日本の一般市民が米兵の戦死者を弔おうと思った、そういう思いを形にして残したということは素晴らしい」と語りました。この日は、区内の他の戦跡も巡ろうと、慈眼寺の戦災銀杏や源長寺の焼け残った大樫の切株、千住神社なども訪れました。千住神社の入り口に残る防空壕をのぞき込んだ森さんは「こういう狭いところに何十人も入ったのか。ぎゅうぎゅう詰りになっても必死になつて空襲から逃れた感じがわかった」。また同神社に空襲後も生き続ける「不屈のイチョウ」に、たわわに実る銀杏を見つけて「戦後に復興を果した日本のような」と感想を述べていました。



千住神社に残る防空壕

最後に森さんは「普段は通り過ぎてしまう地元、こんなに多くの戦争の爪痕がある。自分自身も戦争の記憶はないが、風化しないようにみんなに知らせたい。戦争ができる憲法を作ることにはとても賛成できない。そういう思いをあらたにした一日になった」と語ってくれました。

歴史重なる火薬製造所

弾道管で実射試験

7月13日、板橋支部の三角敏明通信員と、都営三田線新板橋駅から徒歩10分のところにある国指定史跡「陸軍板橋



弾薬の性能を検査した弾道管

火薬製造所跡」を訪問。現地では、板橋区生涯学習課学芸員の杉山宗悦さんに普段は入れない施設の内部等も含めて



「父が働いていた」と三角通信員

案内していただきました。この近くで生まれ育ったという三角さんは、史跡の中に入っている加賀公園の辺りは小学生の頃の遊び

板橋区

杉山さんの説明によると、江戸時代には加賀藩の下屋敷がこの辺にあり、その広さ21万7000坪(東京ドームおよそ15個分)に比べると、今の史跡指定地は3636坪なので1.7%程度の広さしかないとのこと。史跡の名称

は「陸軍板橋火薬製造所跡」ですが、火薬工場だけだとしてこの地域の歴史はよく分からないそうです。まず、加賀藩の下屋敷があり、その跡地に1876年(明治9年)、明治政府による初めての近代的な火薬製造所ができ、さらに終戦で火薬製造所がなくなった後は、工場、学校、研究所と使われていった。こういう江戸時代から現代にいたる重層的な歴史を、この史跡では非常に重視しているとのことでした。

説明の後、弾薬の性能を実射して検査した弾道管や、露天式発射場を形成した土塁や的となった築山、旧理化学研究所板橋分所などを見学して回りました。三角さんのお父さん故人は、実は戦時中この弾薬工場に働いていたそうです。健康な人は兵役に服すところ、病弱だったために軍需工場に働かされたとのこと。最後に三角さんは、「そういう意味でも大事な史跡。資料もほとんど残っていないので後世に伝えるのはなかなか難しいけれど、せめて公園にして形だけでも残しておかない」と話してくれました。